

令和5年度 学 校 評 価 【 中間報告 】									
学校教育ビジョン 1. 学校教育目標 今も未来も たくましく生きぬく 山中っ子の育成 「Well-Being 幸せになるために学ぶ」 2. 目指す児童像 周囲と協働し、自らすすんで行動する児童 3. 本年度の重点 やってみよう山中小！2023 (1) 「自ら学びに向かう児童」の育成 (2) 児童の「自己決定」の場面を設定し、「自己有用感」を高める活動の充実 (3) 地域との連携を通し、信頼される学校づくり									

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	組織的に、児童の学びの意欲を高める授業改善に取り組み、確かな学力の向上を図る。	身に付けさせたい教科の資質能力と、主体的学びに向かう「付けたい力」を明確にし、算数科を中心とした授業改善に取り組む。	教務主任	昨年度は、学力調査結果からの課題を念頭に、単元のまとまりで授業構想を行い、指導事項のキーワードや学習用語を意識して学力向上をめざしてきた。しかし、学習した内容の理解が十分でなく、進んで新しい課題に取り組む力の育成には及ばなかった。	【成果指標】 算数の単元末テストにおいて、児童が、学年として必要な力を身に付けている。	算数科の単元末テストで80点以上の児童が A 8割以上いる B 7割以上いる C 6割以上いる D 6割以下である	1・2学期末 単元末テスト(算数)	C	1学期の算数の単元末テストにおいて、80点以上の児童の割合が61％で、Cとなった。思考・判断・表現の授業において学習した知識・技能を生かす場面を取り入れていくことで、さらに理解が深まっていく考えられる。そこで、「やってみよう」を引き出す課題や知識技能を生かす学習展開で単元を構想したり、教員も単元末に指導を振り返るようにする。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	児童が互いに尊重し、協力し合えるような温かい人間関係の中で、前向きに自分から行動できる活動の充実を図る。	児童会活動などでは、自分で考えて、主体的に行動できるような場を設定する。また、縦割り活動や運動会の団活動、わくわくタイムなど、児童同士がつながる機会を設ける。	生徒指導主事	昨年度は、児童アンケートで「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた児童が85％だった。一方で、昨年度末不登校・不登校傾向児童が6人と、一昨年よりも不登校・不登校傾向児童が増加した。	【成果指標】 「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的に答えることができたか。	「学校に行くのが楽しい」と回答した児童の割合が、 A 85％以上である B 75％以上である C 65％以上である D 65％未満である	1・2学期末 児童アンケート	A	児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」と肯定的に答えた児童が86％だった。授業中の話し合いやわくわくタイムなど子どもたち同士が関わり合う場面では、楽しそうに活動していた。引き続き子どもたち同士が関わり合う時間を多く作っていく。また、否定的に答えた児童については、子どもの姿を見取り、変化に気づき、適宜話を聞くなど、丁寧に関わっていく。
③キャリア教育・進路指導	自己理解を深め、自己肯定感を高める。	道徳や学活の授業を充実させ、自分や友達のよいところに気付くことができるようにする。また、キャリアパスポートを効果的に活用し児童一人ひとりが目的意識を持って行事や学習活動に取り組めるようにする。	キャリア教育担当	全校を通して「自分にはよいところがある」と答えた児童は多い。反面、学年があがるにつれて自己肯定感が低い児童の割合は増えている。	【成果指標】 「自分にはよいところがある」と肯定的に答えることができたか。	肯定的な回答をする児童が、 A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	1・2学期末 児童アンケート	B	児童アンケートで肯定的に答えた児童が75％だった。受け止めたり、認めたり、励ましたりしながら自己存在感を与える授業づくりを行っていく。また、行事等でも児童一人ひとりが活躍する場を設ける。キャリアパスポートや振り返りなども効果的に活用していく。
④保健管理	ネット利用における健康被害について学び、自らの健康的な生活について考え実践する。	担任の日常的な声かけや指導に加え、養護教諭が指導を行う。また、委員会の企画で意識を高めるとともに、保護者への啓発も行う。	保健主事	ほとんどの家庭でネット・ゲームを行うことができ、過度な利用で生活リズムが乱れている児童がいる。	【成果指標】 「睡眠時間を十分にとっている」と答えられたか。	「睡眠時間を十分にとっている」と答える児童の割合が、 A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満	1、2学期末 児童アンケート	A	87％の児童が睡眠時間を十分にとっていると答えた。高学年になると睡眠時間を十分にとれていないと答える児童が増えている。2学期以降も自分の健康について考え、児童自身が意識して行動していけるようにしたい。保健指導や、学校保健委員会を通して、児童・保護者へ啓発していく。
⑤安全指導	学校安全計画に基づき、学校安全に関わる取組を実施し児童・教職員の危機対応力を高める。	日常生活における危険予測についての学習や防犯教室・避難訓練を実施する。また、土砂災害の出前授業を実施する。	教頭	計画的に研修や避難訓練を実施できたが、突発的な事態に備え、教職員、児童ともに危機対応能力を高めていく必要がある。	【努力指標】 危機対応能力が高まる学習や避難訓練ができたか。	「危機的状況を想定し真剣に避難訓練に取り組めた」と答える児童の割合が A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満である	1、2学期末 児童アンケート	B	72％の児童が真剣に避難訓練に取り組めたと答えた。どの学年もすばやく避難することはできたが、友達としゃべりながら避難する姿も見られた。2学期は、何のために避難訓練をするのかを考え、動画や写真など見て危機意識を持てるようにするなどの事前指導を確実にを行い、真剣に避難訓練に取り組めるようにする。
⑥特別支援教育	支援の必要な児童への適切な対応を図る。	専門相談員やスクールカウンセラーを積極的に活用していく。またコーディネーターを中心に、組織的に現状に応じた支援体制をとる。	特別支援教育 コーディネーター	支援を要する児童が多数おり、随時支援体制を見直してきた。適切な支援について、支援方法を検討していく。	【努力指標】 校内支援委員会で検討し、組織立って適切な指導ができたか。	支援を要する児童に適切な指導に努めている割合が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満である	1、2学期末 教職員アンケート	D	「組織だって適切な指導ができた」と回答した割合は61.5％。支援度の高い児童に対する支援委員会もつことができた。更に管理運営計画を再確認し、計画的、組織的に委員会を開催していきたい。その他、児童理解の会等で挙がる児童や通級児童等についても関係者間の連携を図り、支援方法を検討し教職員全体で共通理解に努めていく。
⑦組織運営・業務改善	業務改善、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	時間外45時間を超えない働き方の意識を高め、業務改善につながる取組を全教職員で考え、試行し改善していく。	教頭	月2回の定時退校を呼び掛けたが、年間を通じて、時間外勤務45時間を超える教職員が全体の半数程度であった。自らの働き方について見直し、改善していく必要がある。	【努力指標】 効率的、効果的に業務を遂行しようとしたか。	「効率的・効果的に業務を遂行しようとした」と回答した教職員が A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 50％未満である	1、2学期末 教職員アンケート	A	肯定的な回答が92％であった。どの教職員も効率的・効果的な業務遂行を意識できた。しかし、時間外勤務の状況を見ると、毎月45時間を超える教職員が数名いるという現状である。今後も効果的・効率的に業務が遂行できるよう、教職員でアイデアを出し合いながら業務改善を進めていきたい。
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、児童のやる気を引き出す授業づくりに努める。	算数科を中心に単元を見通した授業づくりに努め、単元計画は児童と共有する。児童のやる気を引き出すために導入や提示の仕方を工夫し、学習形態を選択できるようにする。	研究担当	真面目に授業に臨む児童は多いが、自己の学びを調整しながら粘り強く追求したり、学んだことを日常生活や他の学習で生かす力は弱い。	【成果指標】 算数の課題に自分から進んで楽しく取り組むことができたか。	算数の課題に進んで取り組んだと答えた児童の割合が A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満である	1、2学期末 児童アンケート	C	児童アンケートにおいて算数の課題に進んで取り組んだと答えた児童の割合が68％だった。教師は、単元を見通して授業を組み立てることを意識できたが、児童にとって必要感をもたせたりやってみたいと感じさせたりするような工夫をすることが難しかった。今後も引き続き、児童のやってみたいを引き出す工夫を凝らした単元の構想に努めていく。
⑨保護者、地域との連携	保護者や地域の方々とともに課題解決に取り組み、児童の成長を喜ぶことができる連携を図る。	・コミュニティスクール・コーディネーターと連携し、地域の方との協力体制を整えるとともに、ホームページやGoogleクラスルーム等のICTを活用し積極的に学校の様子を発信する。	教頭 各担任	使い等で学校の様子を伝えているが、保護者や地域との連携・情報共有は十分とは言えず、HP(ホームページ)等、クラスルーム等のICTをより活用した取組が求められる。また、コミュニティスクールの初年度であり、体制づくりが求められる。	【満足度指標】 便り・HP等のメディアを活用し、保護者が児童の学校生活の様子を知ることができる。	学校便りやホームページ等で、学校の様子がよくわかる」と答えた保護者の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	1、2学期末 保護者アンケート	A	保護者アンケートの結果82％であった。今後もHPでは学校の様子について積極的に発信していきたい。また、学校だより、各学年のたより等でも、児童の活動の様子をデジタル配信していきたい。
⑩教育環境整備	児童一人ひとりの学習への興味・関心を高め、安全安心でのびのびと学習できる教育環境の整備に努める。	安全点検や日常的教育活動を通して、合理的配慮の視点から教材教具を整えていく。	教頭 事務担当	これまでも修繕等の教育環境整備に努めてきたが、児童一人ひとりの主体的な学びにつながるような合理的配慮に基づいた教育環境の整備が求められる。	【努力指標】 合理的配慮の視点から教育環境を整備することができたか。	「合理的配慮の視点から教育環境を整備することができた」と答える教職員の割合が A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 50％未満である	1、2学期末 教職員アンケート	A	肯定的な回答が92％であった。どの教職員も合理的配慮の視点から教育環境整備を行うことができた。さらに全教職員で合理的配慮を踏まえた環境整備について共通理解を図り、児童一人ひとりの状況に応じた環境整備に努めていく。